

3 経堂地区の課題と取組み

課題1 住民同士のつながり、ネットワークの拡充

■意見

○町会同士や商店街との連携

- ・町会と商店会のつながりをより深め合う。町会・商店会内で災害発生直後の役割分担については協議していきたい。
- ・近隣住民同士の連携が不可欠。お隣同士は仲良く情報交換しておきたい。
- ・住んでいること自体がメリットである。町会や商店会への加入を促進していくべき
- ・災害時〇〇提供の店等商店会の物資提供の仕組みづくりが必要。
- ・都営住宅で防災訓練を行なったが参加率が高かった。より狭いコミュニティで訓練することを広げていくのもよい。
- ・これからは近隣町会で連携することが大事。采配するリーダーが必要。
- ・町会が組織する防災組織が基本になる。他まで手がまわらない。一時集合所の運営はどうする？

○要援護者の安否確認

- ・高齢者や障害者について町会だけでは把握が難しい。
- ・災害時要援護者の把握と安否確認をどのようにするか。
- ・安否確認には個人情報への壁がある。例えば、障害者施設と町会が連携することも現時点ではまだできていない。

○小・中学校保護者等若い世代への働きかけ

- ・災害時のことに関心を持ってもらい、人的ネットワークを広げていく必要がある。
- ・中学生と一緒に訓練することは、大人になっても関心を持ってもらえるのでよい。
- ・魅力がないと参加してくれないので中高生のニーズを聞きながら、生徒と保護者を巻き込んだ訓練をすべき。
- ・避難所運営訓練や防災訓練へのおやじの会の参加を呼びかける。この日を次につながるきっかけづくりのチャンスとする。
- ・小学校の保護者の中には自分の町会を知らない人たちがいる。周知が必要。
- ・人集めが課題。消防団には最近若い人が入ってきているように、ただ待っていても来ないので呼びかけないと始まらない。
- ・東京農業大学と連携し、学生にも関心を持ってもらう。

■地区としての取組みの方向性

- ・イベントを続けて地域の団体の顔が見える関係をつくる。
- ・町会内のブロックや都営住宅等小さいコミュニティでの防災訓練の実施
- ・地域のイベントやお祭りやセットで防災訓練を行う等参加者が楽しく訓練に参加できるような工夫をする。

- 東京農業大学との連携。行事に声をかけ、具体的な役割をお願いする。
- 小さいコミュニティでのつながりを大切にする。
- 地区内の私立学校や神社・寺院・コンビニエンスストア・商業施設・スポーツ施設等に災害時の協力を呼びかける。
- 災害時の要援護者対応の流れ、情報公開のルールを構築。
- 地域内で災害時の連携についての話し合う場を設ける。

■各団体の今後の取組みの方向性

- 経堂1丁目町会、経堂農大通り商店街、経堂本町会と経堂南口平和通会は、今後も一緒に防災訓練を行うなど、つながりをより深め合う。
- 経堂北町会と宮坂3丁目町会は地域の商店街や団体と協力して今後も一緒にイベントを行い、顔が見える関係を作っていけるよう連携していく。
- 経堂小の避難所運営訓練や防災訓練では子どもだけでなく、大人にも関心を持ってもらう工夫をしていく。
- 経堂北町会とほほえみ経堂はお互いの会議やイベントに参加し、助け合える関係を今後も継続する。
- 経堂南町会は安心・安全パトロールを継続して行う。
- 経堂南町会は、経堂1丁目町会と一緒に一時集合所から避難所となる桜丘小へ避難する訓練と避難所運営訓練を継続する。
- 経堂南町会では、地域のイベントやお祭りとセットで参加者が楽しく防災訓練に参加できるよう取り組む。
- 宮坂1・2丁目町会は世田谷小と全児童が参加する訓練を今後も継続して行う。
- 世田谷小避難所運営訓練へのPTAの参加者を増やす。
- 経堂本町会は、AEDの操作訓練を今後も実施していく。
- 宮坂1・2丁目町会は、災害時要援護者支援協定を締結しており、今後も継続して要援護者を確認し、民生委員と連携していく。
- 宮坂1・2丁目町会は町会への加入促進に取り組んでいく。
- 桜丘町会では地域の団体へ災害時要援護者支援隊の登録を呼びかける
- 桜丘町会では災害時要援護者へ配付する「さくらカード」を災害時の支えあいに活用していく。
- 桜丘の3町会では小さい単位での防災訓練を実施し、参加者を増やし、知り合う機会にしていく。

- ・桜丘の3町会は、東京農業大学と連携し、運動部の学生と地域で日頃から交流し、災害時支え合える関係を築く。(現在覚書を交わすよう準備中)
- ・桜丘地区では、イベントで防災訓練も実施するなど楽しく・ふれあい・知り合えるよう工夫する。

課題2 情報不足・情報が行き届いていない

■意見

○情報不足

- ・情報については、町会に入っていない人も多く、行き届かない。
- ・地域の人をよく知らない。情報不足。
- ・住民の意識改革。訓練に参加している人は意識が高い。一方で、避難所に行けば助かると思っている人たちも多い。

○防災マップの作成・まち歩き

- ・町会で防災マップを作成し、防火水槽の場所やスタンドパイプ等防災資源を把握している。
- ・道路の安全確認が非常に重要である。今後、防災マップを作成し、まちを歩いてみることも必要。
- ・防災についてもっと精通しないといけない。また防災組織の強化をしないと意味がない。

○集合住宅への働きかけ

- ・集合住宅にどんな人が住んでいる人か分からない。
- ・集合住宅の安否確認、情報収集、防災組織の強化が課題
- ・大型マンションとの連携が薄いため、マンションで防災訓練が実施される際、町会にも連絡してもらい、町会員も訓練に参加するようになるといい。

■地区としての取組みの方向性

- ・子育て世代等が参加の多いイベントのときに防災訓練等をPRする。
- ・小学校の児童・PTA、町会でまち歩きを行い、地域の課題を再確認する等その過程を大切にしながら防災マップを作成する。
- ・防災マップの3年ごとの見直し
- ・新しく開発される地区やマンションは建築中から町会加入について販売会社に加入促進の協力を求める。

■各団体の今後の取組みの方向性

- ・経堂1丁目町会は、今後も町会独自のニュースを発行し、広報板や回覧で情報を発信していく。
- ・経堂北町会と宮坂3丁目町会で一緒に作成した防災マップを3年ごとに見直す。
- ・桜丘小PTAは児童や町会と交流しながら防犯マップを更新していく。
- ・宮坂1・2丁目町会は、地域特性や防災資源を確認し、地域の課題を認識した防災マップを作成する。この防災マップを活用して地域住民や世田谷小の児童・PTAとまち歩きを行い、自ら考える意識を持てるよう防災学習に役立てる。
- ・宮坂1・2丁目町会は、75歳以上の方の個別訪問(敬老金)を継続してコミュニケーションをとる。
- ・桜丘の3町会では防災マップを一緒に作成し、情報を共有、活用していく。
- ・NPO 世田谷桜丘まちづくりでは、災害時ミニFMで情報を発信する。
- ・桜丘の3町会は、新しく住宅が開発される地区やマンションの販売会社に町会加入促進の協力を求める。
- ・桜丘地区ではウォークラリー等のイベントで子育て世代に防災訓練をPRしていく。

課題3 逃げなくてもいい安全なまちをつくるために

■意見

○スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプの増設

- ・経堂駅の北側は火災が延焼すると北の方面に行けなくなるため、初期消火が非常に大切になる。
- ・延焼を遮断するためのまちづくりが必要。
- ・住宅密集地区は火災が発生すると広がりやすいという危険性がある。
- ・発災後のていねいなシミュレーションが必要。
- ・スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプ操作訓練を定期的に行っているが、一部の固定化したメンバーしか参加していない。
- ・24時間開いており、若い従業員の多いコンビニエンスストアと連携していきたい。災害に備えてスタンドパイプなど初期に使う資機材を設置できるとよい。

○狭い道路等の問題

- ・狭あい道路が点在している。
- ・烏山川緑道付近は地盤が弱い。
- ・宮の坂駅付近の崖くずれが怖い。

○区の施設等の有効利用

- 区の施設、設備、土地を有効利用する。スタンドパイプの設置場所等区の施設、設備が有効利用されていない。
- 避難所となる学校のキャパシティ不足
- 私学の用地の活用・協力を依頼したい。
- 給水所が不足している。
- 災害時に小田急線が運休してしまった際、駅利用者の対応の必要がでてくる。
- マンションの空地に防災倉庫を置けないか。

■地区としての取組みの方向性

- 消火栓や街路消火器が少ないので増やすことを働きかける。
- スタンドパイプや可搬式D型消防ポンプは、水は使わずセットする訓練等方法を工夫して訓練回数を増やす。
- 地区内の施設・私立学校・企業等への災害時の協力を依頼する。
- 自宅避難を推奨し、避難所との付き合い方をPRする。

■各団体の今後の取組みの方向性

- 経堂北町会と宮坂3丁目町会は、街路消火器等消火設備を増やし、火災の延焼を遮断するためのまちづくりを進める。
- 経堂南町会は可搬式D型消防ポンプ操作訓練を今後も毎月実施する。
- 経堂南町会は防災訓練に参加する人を増やす工夫をしていく。
- 宮坂1・2丁目町会は、スタンドパイプの増設と設置場所を探す。
- 経堂本町会はスタンドパイプを設置する。
- 桜丘1丁目町会は大規模災害を想定し、町会内3か所で同時に消火器とスタンドパイプを操作する訓練を今後も実施していく。
- 桜丘南町会は、今後も宇山神社で防災訓練を実施していく。
- 東京農業大学は、学生対象の普通救命講習会を継続していく。
- 桜丘地区では、自宅避難と1週間分の食料備蓄を推奨し、物資支援等避難所との付き合い方をPRしていく。